

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	<p><b>上位目標：対象地域の住民の健康行動が推進される。</b>  <b>事業目標：対象地域の非感染性疾患の予防と管理に関する能力が向上する</b>  <b>指標：非感染性疾患に関係する健康教育・環境改善・保健サービス・生活支援を行う人材の数が増加する</b></p> <p>本事業は全3か年の活動を持って、上位目標・事業目標を達成する見込みである。1年次は住民側の強化を主に実施した。</p> <p>事業終了後も地域で健康行動の牽引役となることが期待される人材として、フィールドファシリテーター（FF）、ソーシャルサポートグループ（SSG）、コミュニティグループ（CG）、計約500名の育成を開始した。この人材が、一般住民のべ33,087名（ICC6,797、一般啓発11,286、啓発劇15,004）に対して、情報発信と啓発活動を行った。調査の結果、啓発活動を実施した9村の住民の約6割が非感染性疾患（以下NCDとする）リスクを部分的に理解していることが確認された。</p> <p>血圧測定・身長体重・血糖値測定を含む健康増進キャンペーンがSSG主体で実施され、計2320人が参加した。SSGメンバー以外にも、ボランティアで学生らがこの活動を支えた。ユニオン評議会が実施する砒素検査キャンペーンでこれまでに計299件の井戸水のヒ素汚染検査が行われた</p> <p>対象地域において住民グループの非感染性疾患予防と管理の能力は向上し、住民の健康行動が推進されていると言える。</p>
(2) 事業内容	<p><b>活動1：対象地域における健康教育に関連した活動</b>  <b>活動1-1 プロジェクトが地域のソーシャルサポートグループ(SSG)とプロジェクトのフィールドファシリテーター(FF)に健康教育に関する研修を行う。</b></p> <p>プロジェクトスタッフの雇用・研修実施後、各ユニオンにSSG（1ユニオン3グループ、計12グループ、240人）を結成し、全SSGに対して研修を修了した。結成までの経過として、ユニオン評議会との協議を重ねて参加型手法を用いた地域住民との会合を企画した。人選はプロジェクトの提示した条件を考慮しユニオン評議会メンバーによる地域内の正式な会議によって実施された。また参加型で手作り地図を作成し地域内の村集落や社会組織・学校等の今後活動に必要な有用な情報をSSGと確認した。SSGのための研修講師には、バ国保健サービス局の“非感染性疾患に関するTOT研修”を受講した郡保健局医務官、県保健局医務官や県病院医務官らに依頼した。プロジェクトは、NCD管理方法や兆候・症状など写真や図を挿入し理解しやすい視覚教材を準備した。またSSGが地域内における非感染性疾患に関する問題を認識し、NCD予防の生活指導を住民に対して実施する能力を獲得することを目的に、研修モジュールおよび発表用の研修教材（ベンガル語）を作成し研修に用いた。</p> <p><b>活動1-2 非感染性疾患予防のためのコミュニティワークショップ開催</b></p> <p>SSGと保健ワーカーの協力の下、コミュニティグループ（以下：CGとする）を結成する対象地域をまず選定し、その後メンバーリストを作成した。メンバーには患者、患者家族、NCD予防に高い関心を持つ人が選ばれた（1ユニオン3グループ、計12グループ、241人）。10月に1回目のワークショップを開催し、なぜNCD患者が急増するのかを参加者に問いかけ、参加</p>

（ここでページを区切ってください）

型で NCD リスクについて学んだ。2 回目のワークショップでは砒素問題について、3 回目では糖尿病とその対処法についてトピックとして紹介した。また初回のワークショップで各メンバーが立てた目標を、各ワークショップでレビューしている。

CG はモニターグループと捉えることができ、プロジェクトを通じて NCD の情報を得ることで住民側にどのような変化が生じるか、また地域の保健行動を高めるためにどのような働きかけが有効かを把握し、今後の対策やモデルづくりに役立てる狙いもある。12 月と 3 月に CG メンバーのモニタリングを行った。

### 活動 1-3 啓発・指導ツールの開発

- ・8 名の FF は手作りポスターを用いて啓発活動を開始した。1 月に参加者からの声を反映したフラッシュカードを作成した。

- ・12 月にコミュニティークリニック（以下 CC とする）で配布する指導用のチラシを作成した。

- ・1 月より啓発劇を開始した。

- ・11 月に体操指導を実験的に行い、教材の元となる情報をベンガル語で作成した。次年度専門家派遣時に改良する計画である。

- ・SSG メンバー用に、身長、体重、腹囲、血圧測定の方法の解説用資料を作成し、測定方法の改善を図った。

### 活動 1-4 プロジェクトと SSG と CG が村レベルの啓発活動を実施する

- ・活動開始準備として、プロジェクトに対する社会的な支援・理解を促進するために、プロジェクトの紹介と NCD リスク要因に関する情報提供キャンペーン（ICC）を実施した。住宅地、市場、広場などで行い、6,797 人が参加した。（男性 4,271、女性 2,526）

- ・FF による手作りポスターおよびフラッシュカードを活用した中庭啓発は、これまでに 11,286 人が参加した。（男性 1,400、女性 7,261、子ども 2,625）

- ・住民リーダーのグループである SSG の主催により、血圧・身長体重（BMI）測定キャンペーンが実施された。地域保健の担い手である政府の保健ワーカーが参加できるよう日程調整を図った。保健ワーカーに対してのプロジェクトに関する研修は 2 年目に実施予定であるが、SSG・住民側のニーズに合わせて活動を進めている。これは、今後「活動 2：保健サービスの質とアクセスの改善」につなげられる。

- ・啓発劇は治安に考慮し、ストリートドラマに変更し実施。15,004 人が参加した。（男性 9,147、女性 3,037、子ども 2,820）

### 活動 2：保健サービスの質とアクセス改善に関連した活動

郡保健局事務所とは頻りに連絡を取り合いながら活動を開始している。SSG 研修実施時には、郡保健局事務所から全面的な協力を得ることができた。SSG はメディカルキャンプの目的と必要性を理解し、次年度のキャンプ実施の下準備として、地域健康課題や NCD に関連する情報を地域住民に積極的に発信している。SSG の提案により開始された血圧・BMI 測定キャンペーンに、可能な範囲で政府の保健ワーカーも参加し、12 月から CC のサービスとして開始された血糖値測定を使った血糖値測定も一部のキャンペーンで行った。同時に CC で提供されているサービスや必須医薬品の配布などについて情報提供し、CC を活用するように呼びかけている。

	<p>郡保健局・郡家族計画局関係者と12月末に会議を行ったところ、フィールドレベルで更なる連携を図りたいとの提案があったことから、各事務所の保健ワーカー会議に参加し、随時情報共有を図ることになった。</p> <p>中央レベルではトレーニングモジュールおよびレファールルに関して保健サービス局と協議した。</p> <p><b>活動3：分野間連携による非感染性疾患対策の整備に関連した活動</b></p> <p>対象ユニオンと会議を実施し、プロジェクト目標、目的および活動計画について説明した。全ユニオン議長がプロジェクトとの連携を支持しており、またユニオン評議会議員は、SSGメンバーとして活動に参加している。本事業は、NCD対策の受け皿としてのユニオン開発調整委員会（以下：UDCCとする）の活性化も目指しているため、ユニオン側の主体的参加を重視し活動を進めている。</p> <p>11~12月、飲料用井戸の砒素検査をフィールドキットで行うためのユニオン砒素検査研修を公衆衛生工学局の協力を得て4ユニオンで実施した。検査費用は、ユニオン評議会会議で一度決定したが、その後、地域住民の要望を聞きUDCC会議等で改定された。砒素検査に関する広報・上場提供は、UPメンバー、SSGメンバーの他、宗教指導者も礼拝前後に行った。</p>
(3) 達成された成果	<p><b>指標 1-1 健康課題が各地域で設定される</b></p> <p>4つのターゲットユニオンに、各3つのSSGが結成され、12のSSGは自らの地域にとって重要な健康課題を選択した。</p> <p><b>指標 1-2 50%のCGメンバーが非感染性疾患予防の行動を取り入れる</b></p> <p>CGメンバーへの3月のモニタリング調査で、76%のCGメンバーが少なくとも一つの予防のための生活改善を開始していると答えた。</p> <p><b>指標 1-3 啓発教材が完成する</b></p> <p>デジタル教材、啓発劇、フラッシュカード、CC配布用チラシを作成した。</p> <p><b>指標 1-4 地域の健康課題を理解する住民の数(1年目はフォローアップ調査対象者の10%)</b></p> <p>2014年4月に240名の住民を対象にフォローアップ調査を実施した結果、61%の住民が健康課題(NCDリスク)について、部分的ではあるが知識があると答えた。</p> <p><b>指標 3-1 ユニオン調整委員会での非感染症に関する協議回数</b></p> <p>4ユニオンで計14回、NCD対策に関する協議が行われた。</p> <p>(別紙1にて詳細を記載)</p>
(4) 持続発展性	<p>この事業は、既存のサービス提供者・機関の強化と住民側のエンパワーメントを抱き合わせることで、効果の持続的発展を目指している。</p> <p>SSGには末端のサービス提供者と住民が含まれ、両者が協力して地域の健康増進に取り組んでいる。特に今年度SSGが提案・実施した血圧・BMI・血糖値測定キャンペーンでは、既存の施設・機材・人材を最大限活用し、SSG外からのボランティアの協力も得て、費用対効果の高い活動となった。</p> <p>CGはNCDに関心を持つ住民によるグループだが、プロジェクトからの働きかけと並行して、各メンバーへのモニタリングを進めている。フィールドでの実践から得られる教訓が、保健サービス局の今後のNCD対策に活用される可能性は高いため、同局との情報共有・意見交換を行っている。</p> <p>残り2年間で、サービス提供者と住民にNCDに関する理解を段階的に浸透させること、試行中の活動を普及しやすいモデルとして整理することに</p>

	<p>より、本事業の持続発展性は担保できる見込みである。</p>
--	----------------------------------